

# 東京都認知症対策推進会議 仕組み部会(第10回)

## 次 第

東京都庁第一本庁舎 3 3 階北側特別会議室N 1  
平成22年1月20日(火) 午後3時30分から

1. 開 会

2. 議 題

- (1) 第9回仕組み部会・第7回認知症対策推進会議の議論のまとめ
- (2) 仕組み部会の成果物について

3. 閉 会

[配付資料]

東京都認知症対策推進会議 仕組み部会委員名簿

(資料1) 第9回仕組み部会・第7回認知症対策推進会議の議論のまとめ

(資料2) 「認知症の人と家族を支える地域づくりの手引書(仮称)」骨子案

「東京都認知症対策推進会議(仕組み部会)」委員名簿

◎部会長

区分	氏名	所属・役職名
学識経験者	下垣 光	日本社会事業大学社会福祉学部准教授
	永田 久美子	認知症介護研究・研修東京センター研究部副部長
	◎林 大樹	一橋大学大学院社会学研究科教授
	元橋 一郎	弁護士 (神田お玉ヶ池法律事務所)
事業介護者	岡島 潤子	特定非営利活動法人東京都介護支援専門員研究協議会副理事長 (株式会社やさしい手 在宅サービス事業本部居宅介護支援事業部 部長)
代表家族	牧野 史子	特定非営利活動法人介護者サポートネットワークセンターアラジン理事長
行政関係者	井上 悟	中部総合精神保健福祉センター保健福祉部長 (広報援助課長事務取扱)
	酒井 威	葛飾区福祉部福祉管理課長
	横道 淳子	府中市福祉保健部高齢者支援課府中市地域包括支援センター包括マネジメント担当主査

各区分において50音順

「東京都認知症対策推進会議(仕組み部会)」幹事名簿

氏名	所属
中島 政彦	警視庁生活安全総務課生活安全対策管理官
松山 祐一	福祉保健局高齢社会対策部在宅支援課長

検討内容

「認知症の人と家族を支える地域づくりの手引書(仮称)」中間稿(21. 10. 23版)の各章について、次のとおり検討

- ①内容の概略・重要なポイントを、執筆担当者が説明
- ②内容の過不足等について、委員により議論

	①内容・重要ポイント	②委員の意見
全体		<ul style="list-style-type: none"> <li>・手引書のイメージに合わせて、「サマリ」「メリット」「考察」という文言を変更した方がよい。</li> <li>・全体的にテキストの比率が高いため、図やコラムを盛り込む工夫が必要。</li> </ul>
第1章	<p><b>【認知症の人と家族が安心して暮らせる地域とは】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の発症により本人・家族が直面する問題と、認知症の人が地域で暮らすことの意味</li> <li>・安心して地域で暮らせるための基本条件—①地域における認知症の理解、②住み慣れた地域であることが活かされていること、③地域資源を開発し、つなげること—について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「認知症の人と家族が安心して暮らせる地域」の全体像について、第3章～第7章の取組との関係性を示しつつ図示してはどうか。</li> </ul>
第2章	<p><b>【関連する諸法規について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の人の権利保護にあたっての考え方と利用できる制度</li> <li>・個人情報の収集・第三者提供に関する法令の解説</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・権利保護の必要性を示すために、高齢者虐待に関するデータをグラフ化して挿入した方がよい。</li> </ul>
第3章	<p><b>【推進体制の構築】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域特性に応じて、地域づくりの推進体制を構築・運営する方法</li> <li>・ネットワーク会議の構成員や組織構造のアイデアを、先行地域での事例等から例示</li> <li>・推進組織のあり方を、自治体の規模ごとに例示</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「推進体制」の指す範囲が広いので、ネットワーク会議中心に内容をより絞った方がよいのでは。</li> <li>・ネットワーク会議が立ち上がるまでのプロセスを記載してほしい。</li> <li>・ネットワーク会議を機能面から分析し、各機能を担う地域資源を例示した方がよい。</li> <li>・ネットワーク会議が、地域を巻き込みながら発展していく過程についての記載が必要。</li> <li>・ネットワーク会議の役割として、「顔の見える出会いの場であること」「理念の共有」も重要ではないか。また、ネットワーク会議自体の効果についてもっと書いても良いのでは。</li> </ul>
第4章	<p><b>【地域資源マップの作成】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域資源マップの作成過程で得られる効果と、配布・活用により得られる効果</li> <li>・モデル事業で制作された3つのマップの紹介、比較</li> <li>・行政のバックアップの重要性</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3つの地域資源マップについて、誰が作り、誰の手を経て、誰に渡すのか、を明記した方がよいのでは。</li> <li>・内容について、もう少し具体的に言及したほうがよい。</li> </ul>
第5章	<p><b>【徘徊SOSネットワークの構築】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・徘徊SOSネットワークを構築するまでの準備</li> <li>・徘徊SOSネットワークの運用にあたってのポイント</li> <li>・徘徊SOSネットワークの広域対応について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の対象者を明確にする必要がある。</li> <li>・モデル事業では、実際の運用に至っていないことに注意する必要がある。</li> <li>・徘徊SOSネットワークの構成について図示するとネットワークのイメージがしやすい。</li> </ul>
第6章	<p><b>【家族会の育成支援】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族会の、地域資源としての必要性</li> <li>・家族会の立上げ支援、運営支援の具体的な方法</li> <li>・ボランティア・専門職・行政の、家族会への関わり方のポイント</li> <li>・介護サービス事業者が家族会を運営する場合のポイント</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「家族会とは何か」についての説明があるとよい。</li> <li>・支援を行う行政・民間団体にとってのメリットも記載した方がよいのでは。</li> <li>・家族会の、自助グループにとどまらない役割についても記載が必要。</li> <li>・家族会の活動メニューや、ボランティア・専門職等の関わりを図式化してはどうか。</li> </ul>
第7章	<p><b>【介護サービス事業者による地域活動】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症支援拠点モデル事業で、5事業者が実施した取組の分析</li> <li>・地域コーディネーターの役割</li> <li>・地域の協力を得るためのポイント</li> <li>・今後の展望</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護サービス事業者だからこそなした「良さ」を強調したほうが良いのでは。</li> <li>・拠点となる介護サービス事業者にとってのメリットを記載してはどうか。</li> <li>・介護サービス事業者と地域との関係を示す図が必要。</li> <li>・「今後の展望」を、介護保険事業者に対する呼びかけとして整理してはどうか。</li> </ul>

仕組み部会に関する主な意見

- 手引書で示されているように、介護サービス事業者の地域活動において「地域コーディネーター」の役割はとても重要。しかしその費用を介護サービス事業者が負担することは困難であるため、継続して配置するための仕組みが必要。また、事業者だけでなく地域包括へも配置できるとよい。
- 地域の認知症サポーターをもっと活用していくべき。養成した認知症サポーターにフォローアップ研修を実施したり、地域と関わる機会を提供するなど、コーディネート機能の充実も含め、認知症サポーターの活用が進むことが望まれる。
- 認知症支援の難しいところは、認知症の人を発見しづらいこと。そのため、認知症の人を地域で早く発見できるような工夫が、地域で支える仕組みづくりにおいてもとても重要。
- 都の認知症対策の全体像が見えるように、他の部会についても記載して欲しい。

第9回仕組み部会  
(平成21年10月23日開催)

第7回認知症対策推進会議  
(平成21年11月4日開催)

コンセプト

➢ 都内の様々な地域が「認知症地域支援ネットワーク事業」のような仕組みに取り組むことを目指し、その取組みの参考となる成果物とする。

内容

➢ モデル事業における取組みの列挙にはせず、区市町村等が事業実施に応用できる「標準的モデル」を事業ごとに掲載する。  
 ➢ 第2部は1章・2章を総論、3章以降を各論として事業ごとに章立てを行う。各論は、それぞれ①早わかり(0.5頁)、②標準的モデル(0.5頁)、③解説、で構成する。

構成	考察の内容、盛り込む項目	1/20現在の頁数 (メリット・サマリー含む)
表紙		
はじめに		1 ページ
目次		2 ページ
用語の定義		1 ページ
<b>第1部 都の認知症高齢者を取り巻く状況</b>		
第1章 都内の認知症高齢者の現状	・都内の認知症高齢者数 ・在宅の本人・家族の状態像 ・認知症高齢者のすまい方 ・地域生活を支える資源の活用状況	4 ページ
第2章 都の施策展開	・都の認知症対策の方向性 ・地域づくりに向けた施策展開	4 ページ
<b>第2部 認知症の人と家族が地域で安心して暮らせるまちづくりの進め方</b>		
第1章 認知症の人と家族が安心して暮らせる地域とは	1. 認知症により直面する問題 2. 認知症の人が地域で暮らすことの意味 3. 地域で暮らす上での課題 4. 地域で安心して暮らせるために - 地域における認知症の理解 - 住み慣れた地域であることが活かされている - 資源を開発し、つなげていく	3 ページ
第2章 関係する諸法規について	1. 認知症の人の権利保護について - 認知症の人に対する権利侵害の状況 - 成年後見制度について 2. 個人情報の情報収集、第三者提供について - 個人情報保護に関する法令の説明 - 医療介護ガイドライン(国が作成した医療・介護関係者向けの個人情報取扱指針)の解説 - 個人情報の収集について - 個人情報の第三者提供について	5 ページ
第3章 推進組織づくり	1. 推進組織作りの意義 2. 地域特性に応じた地域づくり推進のポイント - 地域特性の把握 - 強みを活かす、弱みを強みに転換した地域づくり - 地域の特性に応じた推進体制の組み方 3. ネットワーク会議設置の流れ - 事務局の整備 - 参加メンバー、組織構造の決定 4. ネットワーク会議の活動内容 5. ネットワーク会議の効果	9 ページ
第4章 地域資源マップの作成	1. 地域資源マップの意義 2. 作成過程で生まれる地域資源マップの「個性」 3. 資源をつなげるネットワーク効果 4. 地域資源マップのタイプごとの特徴	6 ページ
第5章 徘徊SOSネットワークの構築	1. 徘徊SOSネットワークを構築するまで - 徘徊による行方不明者の現状分析 - 徘徊SOSネットワークへの参加依頼 2. 徘徊SOSネットワークの運用にあたっての留意点 - 情報の配信手段について - 個人情報の保護について - 夜間・休日の対応について - 発見した行方不明者の保護場所 - 模擬訓練の実施による徘徊SOSネットワークの検証 - 認知症の正しい理解の普及と声かけのトレーニングについて 3. 徘徊SOSネットワークの広域対応 - 徘徊等による行方不明者の広域移動 - 警察・消防・他区市町村等との連携	6 ページ
第6章 家族介護者の会の育成支援	1. 家族介護者の会の意義 2. 家族介護者の会の効果(家族介護者にとって) 3. 家族介護者の会の立ち上げ支援 - 開催場所の確保について - 支援者の確保について - 参加者の募集について 4. 家族介護者の会の運営支援 5. 家族介護者の会の運営のポイント - 専門職の関わり方について - 参加しやすくする工夫 - 継続運営に向けたボランティアとの協働 6. 介護サービス事業者が主体となる家族会の運営について	7 ページ
第7章 介護サービス事業者による地域活動	1. 「地域における認知症の人と家族への支援の拠点」を介護サービス事業者が担う意義 2. 認知症支援拠点モデル事業における取組の分類 3. 介護サービス事業者の地域活動になじまない取組 4. 地域の協力を得るためのポイント - 地域コーディネーターの配置 - 定期的な連絡の継続 - 事業メリットの提示 - 行政の関与 - 今後の展望	6 ページ
参考資料	・認知症支援拠点モデル事業所要経費人員一覧 ・認知症対策推進事業実施要綱 ・認知症対策推進会議仕組み部会委員名 ・認知症対策推進会議仕組み部会開催実績 ・認知症の人と家族を支える地域づくりの手引書(仮称)執筆担当者	12 ページ
<b>合計</b>		<b>66 ページ</b>